

学校統合についての保護者の 意見に対する市教委の回答

Q：子どもたちのためには、望ましい教育環境は必要だと思うが、不安が残ったままでは会議の場についても、なんとなくあまりいい機会にならない。今までの統合で、お互いの学校を知る機会を設けるとか、不安解消に向けてどのようにやってきたのか教えてほしい。

A：朝日地域で、小川小学校と朝日みどり小学校の合同統合検討会で、統合後の校舎を決めるときに、お互いの学校のメリットを紹介しあったりとか、学校の見学会もやつた。合同統合検討会に進むとお互いの思いを出し合って、こうなりませんかねという話し合いがされていくので、少しずつ不安解消につながっていくものと考えている。できれば、合同統合検討会の場で、金屋小の良さ保内小の良さを交流し合う中で、学校行事はどうあれば双方をくみ取ることができるのかなど話し合っていただきたいと考える。

Q：学校独自の行事が無くなるのではないか。

A：両校の行事の具体的な内容については統合推進委員会（両校からの同数の選抜者）で協議する。両校独自の行事・伝統等はできるだけ引き継がれるようにしていく。青空教室等の地域を生かした伝統的な行事を引き継いでいくように強く要望するところが大切です。

Q：学校が無くなることで、地域の活気が無くなるのではないか。

A：地域の皆さんと子どもたちとの関わりは、学校を通さなくても可能であると考える。各学校ともいろんな関わり方をしている。例えば金屋から学校がなくなったら、学校も活用できるが、『おらだり塾』等いろいろな地域の力で子どもたちを巻き込んで活性化させることは可能と考える。

Q：地域に出る学習の機会とか、学校行事の中で大人と関わりあう場面が統合によって少なくなるのか。

A：統合しても、学校行事の中で地域の方や大人と関わり合う場面はある。どのような形で地域の方と関わるかは保護者の意見を踏まえながら学校長が決める。地域の子どもを地域で育てるといったときに、両校の行事や伝統、PTA活動など、思いを汲んでいろいろな教育課程を作っていかなければならない。

Q：統合により学校区が広がり、地域が遠のくのではないかと感じる。学校運営協議会としても、視野を広くすることもあわせて取り組んでいかなければならないのではないか。

A：おっしゃる通りです。子どもたちが成長する過程で地域とのかかわりは大変重要な要素です。地域の協力は年々拡大をいただいており、『地域と学校を結ぶオープンセ

ッション』からもその成果が伺えます。子どもたちに、地域の伝統文化や郷土愛の醸成など、地域から温かみを感じられる機会を今後も地域の皆様方と取り組んでまいります。

Q : 金屋小学校では多様な考え方方に触れ、集団性・社会性を育むことも地域を巻き込んで先生方も一緒になってやっている。学習面で、少人数学習が充実している。人数もそれこそ一桁だというわけでもないので、今すぐ統合とならなくてもいいのではないか。

A : 金屋小学校には金屋小学校の良さがある。保内小学校にも保内小学校の良さはある。どちらかの学校が地域からなくなるというのは本当に大変な決断をしなければいけないのは事実です。そういう中で、村上市の考えとしては、荒川地域には1学年2学級規模の学校が望ましいのではないかという考え方のもと、両校にそれぞれの良さを生かしながら統合ができないか、令和10年度の統合に向けて進むことはできないかという働きかけをさせていただいている。

Q : アンケート結果について、保内小学校の方は賛成が多いが、校舎がどこでもいいけれども統合に賛成なのか。保内の人には、金屋の人が保内に来ると思っている。金屋小学校の保護者にしたら全然フラットではない。

A : 今回のアンケートは、統合そのものについてどういった意見があるのかということについて聞くために、校舎のことは前提としないでアンケートをとった。統合後の校舎を金屋小学校という前提であれば、保内地区のアンケートの結果も当然変わるかもしれない。ただ、合理的に考えて古い校舎と新しい校舎はどっちがいいかと考えたときに新しい校舎を選ぶのが多くの声なのではないか。校舎について触れていない形でのアンケートだったが保内側はそういう見方をして答えてくれたのではないかと受け止めている。

Q : 統合は、要は経済性・金かかるから、とにかく学校数を減らしてコンパクトにするんだという思いが非常に強いのではないか。

A : 例えば、村上小学校と村上南小学校、それから村上第一中学校と村上東中学校、その両方の統合については、校舎を長寿命化工事といって、ものすごくお金をかけなければならない。すると村上小学校にも村上南小学校にも10億以上のお金をかけて校舎を直さなければならぬが、村上市には財政的にそのような余裕はない。やはり両方とも今2学級維持できなくなってきたので、どちらか片方にお金をかけて、2学級を維持できるようにしていこうというふうなことは経済面で考えている。

<校舎の長寿命化工事について>

校舎の寿命を50年から80年にするための大規模な工のこと。

Q：統合後に使用する校舎についてどのように決めていくのか。

A：今後開催していく、合同統合検討会で検討し、PTA・保育園保護者・学校運営協議会委員・区長の方々で決定していただく。使用する校舎について、両校での意見がすり合わない場合は、多数決になる場合もある（合同統合検討会は両校からの同数の選抜者）。なお、新校舎については建設の予定はなく、既存の学校（施設）を使用する予定。

Q：教育委員会の考えは、統合後の校舎はどちらになるかは決まっていないということなのか。

A：これまでの広報で、どういう学校の校舎が選定されているかというと、校地、校舎が広い学校、築年数の新しい学校、共同調理場がある学校が優先されてきたというお答えはさせていただいた。しかしながら、だからといって統合後の校舎は保内小学校だと答えることはできませんでした。やはり、合同統合検討会で、両校の代表の方が、実際に校舎を見に行ったりして決定していくべきことと考えます。

Q：統合するとなると両校が閉校となりますか。

A：両校閉校のうえ新しい名前の学校とする場合と、一校のみ閉校しもう一方の学校に統合される場合がある。後者の場合、学校名や校歌等はそのまま使用することになる。統合の形態についても合同統合検討会で協議のうえ、決めることとなる。

Q：例えば保内の校舎を使うとしても、荒川地域として荒川小学校というような新しい小学校をつくるという選択肢はあるのか。

A：それは合同統合検討会の中で、両校閉校して新しい学校を作りましょうとなって、その次の段階の統合推進委員会になります。そこで新しい校名を決定していただくが、その中で、仮に『荒川小学校』がいいねとなれば、そういうふうになります。

Q：統合の時期について、令和10年に統合という目標を令和13年に統合するという議論を合同統合検討会では可能なのか。

A：統合の時期の決定のプロセスは、次の合同統合検討会の、そのまた次の段階の統合推進委員会で正式に決定をしていただく。ただ、他地区の学校統合でも、合同統合検討会の中でも統合の時期はもう1年遅れたほうがいいんじゃないかというような議論は交わされましたので、話し合い次第では、統合の時期は計画とずれることもありうるというふうに考えていただきたい。

Q：統合検討会で次の合同検討会に行かないという判断ができるのか。

A：絶対反対だとなればありうると思います。無理言ってなにがなんでも統合だということはできないと思います。

Q：合同統合検討会に行って、両校お互いに話した結果、やっぱり統合しませ

ん、お互いがやりたくないですっていうふうな結論になった場合は、統合をしないんですね。

A：それは致し方ないと思います。

Q：市教委の説明で、ここで決めなければいけないことを決めて、このことについては後で決めましょうとか、後で検討していただきますという話が出た。他地区の統合の話を見てみると、結局その段階になって、バスのロータリーはどうするのとか、道路を広げてほしいのに教育委員会で国交省とか県の方に言っているのかとか、後々これを決めてもらわなければいけないがとか、校舎を使ったときにこれはどうするんだとかいう話が出るが、それは後の話で、要望はしますとかいうことが多い。我々としては、統合に対して不安な気持ちがあるのに、なんとかしますよという話だけで具体的なご提案をいただけないから、我々の不安が解消されないのでないか。

A：こうやってほしいんだという内容によって提案できるものと、相手と調整しなければ決めることができないものとがありますので、そこは精一杯要望に応えていけるように調整を図りたいとは思いますが、相手との協議という部分はお約束ができない部分はあると思います。統合について検討していく中で、なかなか前もってここのこととは大丈夫なんでとお約束できるものではないかなというところです。

Q：子どもたちが一番理解も納得もしなければいけないとと思うが、子どもたちにはどのように説明するのか。

A：学校統合の前から両校で交流しあう時間をもうけたり、行事を一緒にしたりとか、これから新しい学校を作るんだよということを子どもたちを通じて働きかけていくことで理解を得ていく。

※参考＜平成31年度、令和2年度に統合した小学校児童の学校生活を把握するため4年生以上の児童を対象として実施したアンケートの調査結果（抜粋）＞

- ・学校統合されたことについてどのように思いますか
 よかった、どちらかといえばよかった 81.8%
- ・学校統合前と比べて友達が増えた
 そう思う、どちらかといえばそう思う 91.6%
- ・統合により勉強をする気が出てきた
 そう思う、どちらかといえばそう思う 60.3%
- ・人数が増えたことにより、いろいろなことを経験できている
 そう思う、どちらかといえばそう思う 84.4%
- ・運動会や遠足、学習発表会などの学校行事が楽しくなった
 そう思う、どちらかといえばそう思う 85.1%
- ・友達と仲良くなれるか心配したがすぐに友達になることができた

- そう思う、どちらかといえばそう思う 85.6%
- ・休み時間や放課後などに友達と遊ぶことが多くなった
 - そう思う、どちらかといえばそう思う 83.3%

Q：統合にあたり、子どもたちの不安を最小限にしていただきたい。

A：統合となれば、お互い統合前の学校に在籍していた先生が、統合後の学校に均等になるように県に要望していく。現在は、学校安定化加配で統合後2年間は先生が1人加配される。また、統合前には、学校を超えた交流会などを活発に行うなど、子どもたちの不安は最小限にしなければならないと考えている。

Q：人数が多くなれば、目が行き届かなくなる。少人数の方がしっかり見れる。

A：県による加配、市では児童数規模に応じ、非常勤講師・介助員・スクールサポートスタッフ等を引き続き配置していく。

Q：1学年で2学級を維持したいということで、36人だと2クラスということですが、1クラスが18人でもう1クラスが17人とか、変則的にはできないのか。

A：先生方の数は県の学級編制基準により県が配置する。35人だと教員が1人しか配置されないので1学級になる。36人だと2人配置されるので2学級になる。

＜現在の県の学級編制基準＞

1学級 1・2年生 32人以下、3～6年生 35人以下

Q：複式学級とはどんなものかというのを知りたい。複式学級のメリット、2学級の良さも伝えてもらいたい。

A：複式のメリット：上の学年の子が下の学年の子を一つの教室の中で面倒を見たり、教えたりできる。

複式のデメリット：例えば、算数だったら教頭先生が4年生を受け持ち、担任の先生が3年生を持つという場合もあるが、一人の先生が2つの学年の勉強を見なければならない。そうなると半分の時間は3年生の勉強を見る、その時4年生は自習のような形になるなどの場合がある。

2学級の良さ：仮に児童が36人いれば2クラスになって18人ずつ見ることができる。するとクラス替えができるし、生徒指導上の問題ができたときも、翌年は離すことも可能。

**Q：複式とならないように、先生を要請して付けてもらえばよいのではない
か。**

A：先生方の数は、県の学級編制基準により県が配置するものであり、学級数により附属人数が決まる。

Q：統廃合が原因で不登校になった生徒児童はいないのか。

A：統合を理由に不登校になったということは把握はしていない。

Q：どちらかの学校になったとして、廃校になった学校はどうなるのか。

A：市行政内の各課とも連携しながら利活用方法を検討していく。また、『学校跡地利活用検討委員会』という市行政内で、関係する部署が集まった組織があり、継続的に協議している。地域の皆様のご意見を伺いながら、利活用等を含めて検討していく。

Q：統合したら、スクールバスはどの範囲の子どもたちが利用できるのか。

A：前回の統合と同様に、統合により学校が遠くなるエリアの生徒は、スクールバス送迎をすることを考えている。ただし、市街地で学区の境界のところは、統合される側の生徒が、統合する側の一番遠い生徒よりも近くになるのにバス送迎となる逆転現象が発生する可能性があるので、詳細については調整が必要であると考えている。スクールバスは、今後の統合推進委員会で詳細をつめていく。

<現在のスクールバス>

基本的には 小学生 通年バス：原則2km以上

Q：制服や体操着などが新しくなれば経済的な負担が増えるのではないか。

A：統合しても、在校生は現在使用している体操着をそのまま使用する予定。全く新しいデザインにするか、既存の学校のものを使うかなどについては、今後の統合推進委員会での検討になるが、新しくすることになればお下がりが使えなくなる場合も想定される。しかし、経済面を全体的にみれば、人数が多くなることで修学旅行費や卒業アルバム代金が割引きになるなども考えられる。

Q：学校決定のプロセスは

A：合同統合検討会で、使用する学校及び学校統合の形態の合意をいただいた後、次の段階である統合推進委員会で細部にわたる検討を経て、村上市立学校設置条例等の改正案を議会に提案することになります。これにより議会で可決された後に、県教育委員会へ届け出て、手続きが完了します。

Q：進捗状況の広報について

A：定期的に市報や地域へのたよりの配布を考えている。ホームページは随時更新している。